

「情報を生きる力に」～必修と選択の関連性を考慮して～

端 名 秀 雄
国 語 科 齋 藤 景 子
四十住 基 子

1. はじめに

本校の国語科では、平成11年度より、「情報を生きる力に」という研究テーマのもとで、実践・研究を行っている。このテーマは、「生きる力」の重要な要素の一つである「必要な情報を選択し、主体的に自らの考えを築き上げていく力を育てる」ために、情報の収集から発信にいたるまで、情報を総合的に活用するための「情報活用の実践力」を育成することがねらいである。

2. 研究内容

「情報活用の実践力」を国語科の立場で分析すると、以下のように細分化される。

(尾木和英氏による)

I 情報の収集・理解に関する能力

新学習指導要領の関連項目

- ① 情報を正しく理解する力 [2・3Cソ]
- ② 必要な情報を収集する力 [1Aイ, 1Bア, 1Cカ, 2・3Aア, 2・3Bア, 2・3Cオ]
- ③ 必要とする部分を把握する力 [1Bウ]
- ④ 資料の種類や必要に応じた読み方をする力
- ⑤ その情報の価値や意図を把握する力

II 情報の選択・整理に関わる能力

- ① 収集した情報が必要かどうかを選択する力 [1Cイ]
- ② 情報の要約・再構成・合成などを行う力
- ③ その情報の妥当性・信頼性を判断する力
- ④ 情報を総合的に分析し考察する力
- ⑤ 事実と推測・意見の部分を識別する力 [1Aイ, 1Aウ, 1Cウ, 2・3Aウ]

III 情報の創造・発信に関わる能力

- ① 目的に応じて情報を活用する力
- ② 自分の意見や伝えたいことを目的や意図に応じて効果的に表現する力 [1Aア, 1Bイ]
- ③ 意見や伝えたいことを論理的に構成する力 [2・3Bエ]
- ④ 情報を活用して新しい考えを引き出す力
- ⑤ 研究・実践などの結果をまとめ報告する力
- ⑥ 必要に応じて情報を創造する力

[新学習指導要領の関連項目の数字は学年, A話すこと・聞くこと, B書くこと, C読むことを示す]

本校の国語科では、I・II・IIIの3つの能力を情報活用の実践力の3段階のステップととらえた。そして、1学年ではI, 2学年ではII, 3学年ではIIIの能力が身に付く活動を重点的に行うこととした。

3. 必修について

「情報活用の実践力」の育成をねらいとして、必修の時間では次のような活動を行った。平成12年度の活動内容と、諸能力と単元との関連を表で示しておく。(『 』は教科書単元)

| | | 関連する単元 | 活動内容 |
|-----|----|-------------------------|--|
| I | 1年 | 『おいのり』 『蓬萊の玉の枝』 | 「表紙作り」のためいろいろな本の帯を読む ①③ 「新聞作り」のため新聞記事を読む ①③④ |
| | 2年 | 「修学旅行クイズ」 『シンデレラの時計』 | クイズ作りのための話題を集める ② 文章の内容を理解する ① |
| | 3年 | 「目指せ！金沢弁の達人」 | CM, 小説, 漫画などから方言をピックアップし, その特徴や効果を考える。③④⑤ |
| II | 1年 | 『おいのり』 『蓬萊の玉の枝』 | 「表紙作り」のため帯の文章とキャッチコピーを書く ①② 「新聞作り」のため文章を読み時代風俗を調べる ①⑤ |
| | 2年 | 「修学旅行クイズ」 『シンデレラの時計』 | 必要な話題を使ってクイズを作る ①② 文章の構成を考える ④⑤ |
| | 3年 | 「新聞コラムを読もう」 | コラム欄を読み, 要約, 自分の意見を書く(帯単元) ③④⑤ |
| III | 1年 | 『体験をふり返って』 『蓬萊の玉の枝』 | 体験をふまえ意見文を書く ③ 「新聞作り」②⑥ |
| | 2年 | 「修学旅行クイズ」 『シンデレラの時計』 | クイズを発表する ② 文章をリライトする ②③ |
| | 3年 | 「後輩に贈る一冊」 | 一冊の本を選び, お薦めの言葉を添える ①② |

4. 選択について

平成13年度前期は、3年生で選択A・選択Bとして選択国語の講座を開講した。

選択Aは、補充的な内容ということで、「文化評論家養成塾」と題してさまざまなメディアから文化を探り、それについて自分の意見を述べる機会を与え、コミュニケーション能力の育成を図る活動を行った。

特に、今年度の生徒たちは音声言語表現力が弱いという現状をふまえて、音声言語による表現力の育成を指導のポイントとした。

選択Bは、発展的な内容で、「古典を読んで電子絵本を作ろう」と題して『枕草子』を読み、各段の印象に残った場面をコンピュータを用いて描く活動を行った。

当時の風俗・習慣に目を向けさせながら、主に情報の創造・発信に関わる能力の育成をポイントとした。

次に、平成12～13年度の各学年ごとの実践例を掲載する。

- 参考文献 ・新「ことば」シリーズの情報化時代の言語能力(文化庁)
 ・中学校学習指導要領(文部科学省)
 ・中学校学習指導要領 解説—国語編—(文部科学省)

いろいろな表現の仕方

斎藤 景子

1. はじめに

1年時の生徒は皆元気で、やる気満々である。言いたいことをすぐに言葉にできる生徒もいるが、なんとかして発言し「やる気」を見せたいと思いつながら、なかなかまとまらなくて、もどかしい思いをしている生徒も多くいるようだ。そう思ったわたしは、気持ちを伝える様々な方法を单元ごとに考えてみた。ここでは文学作品での試みを述べてみたい。

2. 実践項目

| 題 材 名 | 内 容 |
|------------|-----------------|
| おいのり | 「おいのり」という本の表紙作り |
| 木 | 朗読の工夫 |
| 父の列車 | 日記を書く |
| 蓬萊の玉の枝 | 新聞作り |
| 故事から生まれた言葉 | 盾と矛の実演販売 |
| 少年の日の思い出 | 登場人物に手紙を書く |

3. 実践例

(1) 「おいのり」の表紙を作ろう

① ねらい

本の表紙には、いろいろな情報が載っている。表紙そのものの他にも帯が懸けられてあって、その内容が読者の心をそそるよう、実に的確にまとめられている。そこでここでは、次のようなことをねらいとして、表紙作りをすることにした。

- ・ 帯のキャッチコピー、紹介文を書くことによって、要約の力を養い、自分の思いを効果的に人に伝える工夫をする。
- ・ 「絵」を描くことによって、印象に残った場面の状況、登場人物の心情を読みとる。

② 活動の内容

導入 様々なジャンルの本の帯を読み、表紙や帯の役割を考える。 (1時間)

作成 A4の用紙を3段に区切り、帯の表(キャッチコピー)、裏(紹介文)、絵を書く。 (2.5時間)

評価 全作品を掲示し、優秀作品を選ぶコンテストを行う。 (1.5時間)

③ 所感

文章(それも短い)を書いたり、絵を描いたりといった活動が一度にでき、それぞれの得意分野(?)が生かせるためか、生徒たちはたいへん楽しげに活動していた。また、コンテストではいろいろな作品を鑑賞し、感心することしきりの様子であった。

この活動によって、一つの表現形式、工夫次第によって人の注意を引きつけることができるものがあることを生徒たちは知ることができたと思うが、自分の思い、考えをそこに十分込められたとは思

えない。1年生の入門的な活動としてはまずまずといったところであろうか。

(2) 「竹取物語新聞」を作ろう

① ねらい

「蓬莱の玉の枝」(竹取物語)は、古典の入門にふさわしい夢のある、楽しい教材であり、生徒の反応もとても生き生きとしたものであるが、実は、かぐや姫の話は知っていても竹取物語の内容は知らないという生徒がほとんどなのである。

そこでここでは、

- ・ 「竹取物語」の全文に興味を持ち、古人の考え方に触れる。
- ・ 平安時代の風俗を知る。
- ・ 新聞というメディアについて知る。

というねらいで「新聞作り」を行った。

② 活動の内容

導入1 印象に残った場面を絵にする。 (2.5時間)

- ・ 「竹取物語」読む。 ・ 平安時代の服飾を調べる。

導入2 新聞の紙面の形式、内容などを知る。 (1.5時間)

参考資料 「新聞はともだち」(読売新聞NIEガイド)

作成 B4の用紙を使って作成。 (3.5時間)

評価 全員の作品を読み、グループ内で感想を述べあう。 (1.5時間)

③ 所感

毎日目にする(読んでいるかどうかは別として)新聞だが、そのレイアウトの仕方や、見出しの付け方など、生徒にとっては知らなかったことも多く、導入2の段階では、こちらの予想以上に興味を引かれたようであった。

しかし、出来映えとしてはあまり発展的なものは見られず、もっとリサーチ活動に時間をとって、例えば、800年代初めの8月15日の気候が、現代と同じかどうかといったことや、畿内で「竹取物語」の舞台にふさわしい場所はどこかといった他の教科とシンクロできるような授業の展開もできたのではないかと、これはあくまで、終えた「後の祭り」の感想である。

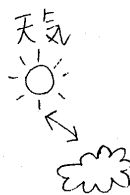
4. 考察

様々なマスメディアがあふれている昨今、意思伝達の手段もいろいろである。「作文をきなさい」と言うとき必ずいやな顔をする生徒も、少しアプローチを変えると、あれこれ考えながらちゃんと文章を綴っている。今後は、ホームページ作りも、国語の領域で実践できるのではないかと思う。

古典新聞

第3510号

発行所



帝の愛もかなわず

兵2000人 動員

かくや姫、月へ帰った!!

今まで多くの男たちの心をいそめてきた竹取の翁の家のかくや姫は十五日の夜中の十二時半頃、月からの使者、天人と共に昇天してしまった。

帝もかくや姫に心を奪われており、兵二〇〇〇人を土堀の上、屋根の上へと、公羽の家に派遣された。かくや姫は姫と共に塗籠の中でその身をひそめていた。

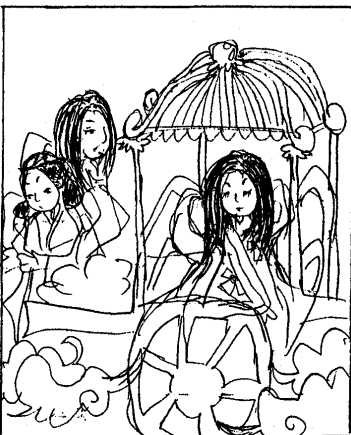
そのような万全の警備の中、夜中の十二時頃、あたりは満月の光を十倍にしたような

「公羽の家を守っていた兵士に穴大撃!!」

かくや姫が昇天した時、屋根の上で弓矢をかまえ守りについていた兵士、藤原有頼氏(32)に突撃インタービューをおこなった。藤原有頼氏は興奮した様子で語ってくれた。



藤原有頼氏



「天人と共に昇天するかくや姫」

「それはすごい光景でしたよ。あたりが瞬間にして明るくなって、それまではやる気満々でしたのに、体中の力がふと抜けて、まるで物の化にでもおそわれたかのような感じがした。あんなスゴイ体験は初めてでしたよ。私

「まるで物の化にでもおそわれた。かのように……」

「は、屋根の上にはいません。けれど、もね、天人が降りてきた時、目と鼻さきについて、ちよいと手をあげれば届く距離にいたんです。なのに何もできませんでしたよ。やはり、仙郷と人間世界は全くかけはなれているんです。ね。何かこう、人間とは違、た力を持って、いるんです。だからとて、かくや姫を簡単につれさられて、悔しくないわけではないです。ね。」

(インタビュー: 豊原道長)

明るさに包まれる。そのとき、兵士達は戦う事ができなくなりました。ずらりと並んだ天人たちは飛ぶ車を一つをもち、すばらしい装束で天から降りてきた。固く閉ざしてあった塗籠の戸が自然に開き、かくや姫も自由に外に出た。

不死の薬を止め、帝と翁姫に交を残した。とても落ちついた様子であった。天の羽衣を着せられ、人間としての感情を失ってしまった、かくや姫は、その

まま、飛ぶ車に乗って一〇〇〇人ばかりの天人と共に昇天してしま、た。残された兵士はただただ呆然とする次第であり、公羽と姫はその場に泣きくずれていた。

「竹取の翁がつづいた、かくや姫のすべて——」

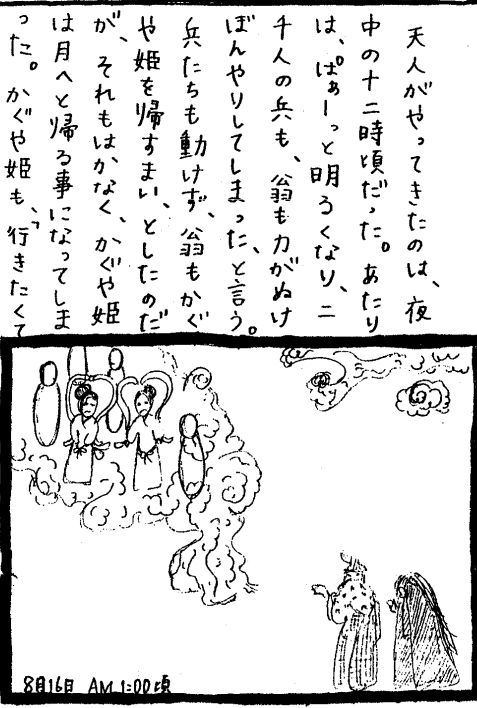
「かくや姫物語」

好評発売中 羊二五〇〇



絶世の美女 かぐや姫、月へ帰る!!

「わたくしは月の者」と重大発表をしたかぐや姫。そして、昨晩、とうとう、月から天人達がかぐや姫を迎えにやってきました。かぐや姫は、別れを惜しみつつ、月へと帰っていった。天人がやってきたのは、夜中の十二時頃だ。あたりには、ぼろりと明るくぼり、二十人の兵も、公卿も力がぬけ、ぼんやりしてしまつた。と言ふ。兵にちも動けず、公卿もかぐや姫を帰すまい、としたのに、かぐや姫は、それとはなく、かぐや姫は月へと帰る事になつてしまつた。かぐや姫も、行きたくて行くのではないのです。と、最後まで、公卿と姫の事を想つていた。ようだ。わたくしも連れて行って。」と泣く公卿に、かぐや姫は、形見に書置と着物を、帝には、手紙と盃に入つた不死の薬を残した。そして、天人に天の羽衣を着せさせ、そのまま飛ぶ車に乗って、百人ばかりの天人を引き連れ、昇天してしまつた。



帝の二十人の兵
全く役に立たず...

013275号 14版 古新聞 900年 8月16日

~古新聞社アンケート~

Q 私がかぐや姫のようになりたい



Q かぐや姫と結婚したい



このアンケートは、8月14日に行なつたものです。かぐや姫の気持は男女共通で、今回、かぐや姫が月に帰ってしまったのは、大変残念です。



竹取の公卿・姫の
悲しみの声

わたしは、こんな事をしても姫を月へと帰すまい、と決めおりました。けれども、いざ天人と向き合ふと、何も出来ず、姫は月へと帰ってしまつた。本当に悔しい、悲しい。これから、わたしたちは、何を生き甲斐にするはよいのでしょうか? (号泣)

“発行所”

古新聞社 〒123-9876 京都... 3-58

「意見・感想を およせください。」

- 今日の☆ 誕生月占い ☆
- ① 6月生まれ 良色... 薄紫
 - ② 2月生まれ 良色... 赤
 - ③ 11月生まれ 良色... 紅梅
 - ④ 10月生まれ 良色... 鈍出
 - ⑤ 5月生まれ 良色... 紫
 - ⑥ 3月生まれ 良色... 紅葉
 - ⑦ 8月生まれ 良色... 赤
 - ⑧ 4月生まれ 良色... 紫
 - ⑨ 1月生まれ 良色... 蘇芳
 - ⑩ 12月生まれ 良色... 山吹
 - ⑪ 9月生まれ 良色... 薄紫
 - ⑫ 7月生まれ 良色... 紫
- by 小野小町*